

やることがある悦び

NPO法人みどり会

林区）へ避難しました。「災害が起こったときなど非常時は助けを待つスタッフではなく、自分でなんとかしないと、と自覚することが大切。」とみどり工房若林の施設長今野真理子さん。実は今野さんは数年前から災害ボランティアコーディネーターの勉強をしており、これが震災当日から避難所生活までとても役立ちました。

仙台市で精神障害者の自立を支援している団体です。仙台市内にグループホーム「みどりの家 宮町」と「みどりの家 中江」の二施設と、小規模作業所「みどり工房永和台」と「みどり工房若林」の四つの施設を運営しています。



▲ 下山さんと施設長の今野さん

三月の大震災による大津波で、小規模作業所「みどり工房若林」が被害を受け、施設は基礎だけを残し全壊し、什器や備品、製品、書類等も全て流失。作業場として活用していた九百坪の畠も利用不可能になるなど、深刻な状況になりました。

日頃の訓練が役に立つた

地震発生時、利用者は作業を終え休憩中でした。長時間揺れる地震の恐怖の中、なんとか自分を保ち、メンバーとスタッフは車で七郷小学校（仙台市若

▼津波で流された「みどり工房若林」跡



ました。その結果、通所株の功もあり、通所してい　たメンバー、七人とスタッフ四名は、けがもなく避難し、十日間に及んだ避難所生活も、スタッフがメンバーに付き添い、共に避難所生活をしていました。が、なんとか乗た為、なんとか乗りました。

四月中旬から「太白区障害者福祉センター」を間借りして活動を再開し、「仙台市担当課との協議」、「新工房の物件探し・契約・準備工事」、「補助金の申請」、「会員を始めた各方面への情報開示・寄附依頼」等々、と精力的に活動。震災でスタッフ四名のうち二名が退職した中、なんとか六月七日から新しい施設で「みどり工房若林」を再開することができました。「再開は本当に多くの方に支えられた結果です。また、スタッフだけではなく、メンバーさんも一緒になつて新たな施設を探してくれるなど、応援してくれてとても心強かったです。」と今野さん。

再開へ向けて

工房の再生を心待ちにする方々に応えるため、理事長の尾崎正光さんを中心¹に、早い段階で再開の意思を固め、二月二十六日には「みどり工房若林」の再建委員会を立ち上げ、復興に向けて動き出しました。

明るい顔となつていきました。今も、さあ
り織りやパンチングレザー、ビーズなど
を使った様々な製品作りに取り組んでい



▲ 手工艺品

「やせり、やせり」とある、役割があるとこ
うじとせみんな充実してうじ、うじ願い
なつじこくじでね。本日は今的生活が
充実してうじとじうじです。」と久野さん。
これからは、以前のように農作業ができる
る場所を確保し、室内で作業をするか、外

輝く顔に

再開から三ヶ月が経ち、「みどり一慶若林」も落ち着きを取り戻してきました。メンバーもスタッフも皆とても良い笑顔で、まるで家族のように過ごしています。震災後は、これまで作ってきた製品がすべて流された上、加工する材料が手に入らないため、することができなく、つらうな顔をしていました。でも工房が始まるといつから作り始めなければならぬ製品作りも張り合があり、目の輝きが違つて

で農作業をされるか選べるスタイルを取り戻していこうとスタッフは奔走しています。震災後、スタッフとメンバーの絆がより深まつたことも嬉しいことです。

NPO法人 小規模地域活動センター みどり丁房若林

〒984-0826
仙台市若林区若林2-5-5SKビル2B
●TEL 022-762-7610
●FAX 022-762-7611